



さわやか



向上的変容 ~子どもが変わる(成長する)とき~

子どもが変わる(成長する)ときって、どんなときでしょう？
1つのきっかけとして、子どもが、自信や成功体験を得たときがあげられます。教師側からすると、教師の指導がうまくいったときです。突き詰めれば、子どもと教師の信頼関係が築かれたときで、その実際を本校の子どもの姿で確認しました。



さわやか😊笑顔
運動会も笑顔で！

「無心不立」(信なくば、立たず)のとおり、互いの成長には、信頼関係は欠かせないものです。そして、子どもとの信頼関係は、教師が意識してつくるものです。

信頼関係づくりは、子どもが、「先生は、私のことを認めてくれている」と感じるように、肯定的にかかわることです。以下の指導が参考になります。

- 子どもが恥をかかない言葉かけをしている。
→ 人格を否定してはいけません。したがって、行為を叱る。また、全体の問題として考えさせる。
- すべきことを、一時に一事を原則に、はっきりと伝えている。

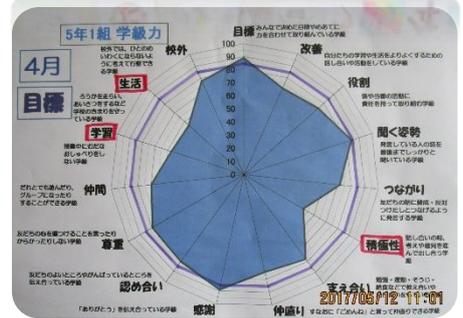
向上的変容その2 ~自治的であること~

2つ目に、「我々意識」が高まったときがあげられます。言葉を代えると「高め合う“自治的”な学級集団」になったときです。

そんな学級づくりの1つの手法が、学級力の可視化です。そのポイントは、我々意識を高めて、子ども自身が自治的に目指す学級づくりをすることです。

学級の目標は決まっていますと思います。写真右のような可視化を図り、子どもに見せ、考えさせ、自ら行動するようにお願いします。

なお、可視化のためのフォーマットを早山教務主任がつくってくださいましたので、こころ部門主任に相談しながら進めてください。



向上的変容その3 ~斉一性を高めること~



斉一性とは、物事が一様であること。整い、そろっているということです。これは、集団や社会にはなくてはならない性質です。

左写真は、3校時の体育館での全体練習時に撮ったものです。次時の準備の教科書と机に収まった椅子が、1人の例外もなく揃っています。学級のまとまり度が見えてきます。

驚いたのは1年教室も同様の状態だったことです。

※授業中の教室訪問の際、子どものあいさつはいりませんので、事前に子どもに話しておいてください。